

令和7年度 第2回銚田市総合教育会議 会議録

1 日時 令和8年1月30日(金) 開会14時00分 閉会15時00分

2 会場 銚田市旭総合支所2階会議室

3 出席者 銚田市長 井川 茂樹
銚田市教育委員会 教育長 安原 優
同 教育長職務代理人 三保谷 智浩
同 委員 坪井 道彦
同 委員 石田 かおり
同 委員 戸島 順子

【説明員】

教育部長	小松 崙 智幸
教育部参事兼指導課長	河原 真樹
指導課副参事	秋山 健一
教育総務課長	吉川 紀子
教育総務課長補佐	飯島 和宏
教育総務課係長	鬼沢 知輝
生涯学習課長	飯塚 貴

【事務局】

政策企画部長	井川 斉
政策企画部参事兼政策秘書課長	山口 和好
政策秘書課長補佐	石崎 明
政策秘書課係長	川田 尚樹
政策秘書課主事	田口 浩太

4 協議事項 (1) 家庭の教育的役割と学校との連携について
(2) 銚田市教育大綱の策定について

5 議事の概要

○開会 (司会：山口参事)

○井川市長あいさつ

皆さん、こんにちは。銚田市長の井川です。銚田市総合教育会議にご出席いただきまして、ありがとうございます。

さて、私は「市民生活ファースト」のための「無駄ゼロ、孤立ゼロ、希望無限大」を政策テーマに掲げ、多くの市民の皆様からご支持をいただきまして、市政運営を担わせていただくこととなりました。

もちろん、教育行政におきましても、その政策テーマを第一に進めてまいりたいと考えておりますが、人口減少をはじめとする社会環境の変化は激しく、これは教育現場においても同様だと考えております。現状の把握に努め、行政として取り組むべきこと、教育委員会として取り組むべきこと、それぞれの責任をしっかりと果たすことで、より良い教育行政が進められると思いますので、今後も重要事項等について協議・判断いただきますよう、よろしく願いいた

します。

さて、本日の会議では、「家庭の教育的役割と学校との連携について」、「銚田市教育大綱の策定について」の2点について、意見交換を行いたいと思いますので、忌憚のないご意見をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

(1) 家庭の教育的役割と学校との連携について

《主な質疑等》

【井川市長】 教育行政を進めていくにあたりましては、家庭・地域・学校・行政が互いに連携することが必要不可欠であると認識しておりますが、その中でも特に、家庭における教育的役割が重要ではないかと、私は考えております。

教育基本法第10条においても、保護者は子の教育について第一義的責任を有するものと規定されています。一方で、社会的・経済的な事情などにより、親が教育のすべてを担うことは難しいことから、私たち行政や学校、地域など社会全体で支援していくことが必要になるわけですが、教育の入口となる家庭教育にまずはしっかり取り組んでいただく、そのような意識を改めて地域全体に共有していきたいと考えておりますが、皆様いかがでしょうか。

【三保谷職務代理者】 市長がおっしゃる通り、教育で最も大事なのは家庭でどう過ごすかだと思っています。私が子どもの頃は、家庭や地域の方々に様々なことを教えていただき、時には叱られながら育てていただきました。しかし、現在は共働きの家庭が多く、保護者に時間がないのが現状であり、子どもと触れ合う時間が減少していると感じます。

また、スクールバスの普及等により、地域を歩く機会が減り、地域の方々と触れ合う時間も少なくなっています。

このような現状を見直して、家庭と地域の力を借りて、子どもたちを育てていける環境を再構築すべきと考えています。特に、家庭での時間が取れない方のために、例えば、ラーケーションなどの制度が積極的に活用できる環境づくりを推進し、各家庭で子どもと過ごす時間を確保できるようになれば良いのではと考えています。

【石田委員】 学校と行政間では容易に連携を取りやすいと思いますが、家庭と地域の関係が一番難しいと思っています。コロナ禍以降、地域の集まりがなくなり、近隣の人が誰なのか分からなく、近所付き合いも希薄になっています。

子どもたちの地域へのつながりに関しては、以前子どもたちは外で遊びまわっていましたが、最近は遊んでいる光景は見えなくなっています。また、スクールバスの話も出ましたが、小学生でも登下校で歩かない子どもがすごく増えていると感じます。親が車で送迎することが多く、子ども同士の会話や地域の方との交流が減っていると感じます。地域と家庭の接し方が以前とは変化しており、そこに難しさを感じています。

【坪井委員】 家庭教育と学校教育には、役割の違いがあると思います。

学校教育では、社会的な教育の一環としての学習環境の醸成が重要な役割であります。一方で、家庭教育では、保護者は愛情をもって子どもを育てることが重要ですし、それによって、子どもは人に対する信頼感や思いやり、社会的なマナーなどを身につけることができると思います。家庭教育は学校教育と同様に、非常に重要な役割をもつと考えます。

【戸島委員】 私の地区では子ども会がなくなる可能性があり、花壇の花植えといった地域の奉仕活動を通じた子どもたちの学ぶ機会が失われつつあります。その結果、地域で協力して取り組む意義や作法を、子どもたちが学習しなくなるおそれがあります。

地域と子どもをつなげるためには、草刈りや神社の清掃などの地区行事に子どもたちも参加しやすい環境を整えることが重要です。こうした機会を設けることで、世代を超えた交流が生まれ、地域コミュニティの活性化につながると考えます。

また、小学生のバス通学については安全な反面、中学校に進学して自転車通学になった際に、自転車に上手に乗れない生徒がいると聞きました。学校でも交通安全教室は行われていると思いますが、家庭での指導も含め、地域全体でサポートしていく必要があると感じています。

【安原教育長】 自転車の乗り方については毎年度、各小学校において警察や交通指導員などのご協力を得ながら交通安全教室を開催し、安全な乗り方に関する指導を行っています。

子どもたちへの教育については、家庭・地域・学校・行政とそれぞれの役割がありますが、子どもが生まれて最初に接する大人は家族であることから、家庭教育の役割は非常に大きいと考えています。家庭教育は、生きる力の土台作りや人格形成において重要であり、小学生から中学生にかけては成長が非常に早い時期でもあるため、保護者の方々には「今この時期を大切に、子どもに接してください」とお伝えしています。

現在、銚田市では学校統合が進んでおり、それに伴う地域コミュニティの希薄化が懸念されています。そこで、その対応策の一つとして、各小・中学校区に学校運営協議会、いわゆるコミュニティ・スクールを設置し、地域と学校の連携強化を大きな目標に掲げ、子どもたちにとって良い地域環境となるよう取り組みを進めているところです。

【石田委員】 親の子どもへの接し方は、自分が親から受けた教育の影響を強く受け、次の世代に引き継がれていくものだと思います。一方で、最近は保護者の関心が自分の子どもに集中するあまり、周囲の子どもや地域の環境が見えにくくなっていると感ずることがあります。その結果、自分と異なる価値観を否定してしまい、異なる教育への理解が生まれにくくなっていると感ずります。

私自身、教員として働きながら子育てをしていた時に、学校で講演会を聞く機会があり、気づきがあったことを覚えています。それまで無自覚でしたが、家庭で「母親」ではなく「教師」として子どもに接していたことに気づきました。第三者の話聞くことは、自分の子育てを客観的に振り返る大切なきっかけになると感じますので、そのような講演会や学習の場を設けることが重要だと思います。

【安原教育長】 講演会については、各幼稚園や小・中学生の保護者が主体的に家庭教育について考える場として、家庭教育学級が設置されています。また、全体研修会として、褒め方や叱り方などをテーマとした講演を大洋公民館で実施しました。

家庭教育学級の実施形態は園や学校によって異なり、単独で実施しているケースもあります。ただし、代表委員のみが参加するなど、保護者全員が受講できない場合もあるのが実態です。

【石田委員】 一部の委員だけが参加する形ではなく、保護者全員が話を聞ける機会がより増えることが望ましいと思います。親子で一緒に学ぶ場を設け、家庭での関わり方を振り返ることができる機会を設けることが大切だと感じています。

【三保谷職務代理者】 石田委員のご意見に同感です。例えば、家庭教育学級は、参加者が役員と一部の教員に限られているのが現状です。また、保健委員会でも、授業中の姿勢や虫歯などについて有識者から貴重な話を聞けますが、こちらも委員のみが対象となっています。

私自身、以前 PTA 会長を務めていた際に、こうした有益な内容を限られた人しか聞けないのはもったいないと感じ、広く共有できる場が必要だと申しあげたことがあります。例えば、PTA 総会など多くの保護者が集まる機会に講習会を組み込み、保護者全員が受講できる場があっても良いと思っています。

【戸島委員】 私が PTA 役員として活動していた際、合唱コンクールで保護者も合唱に参加した経験があります。親子が同じ時間や体験を共有できる場合は、工夫次第でつくれると思いますので、行事に合わせて講演や対話の場など、親子で参加できる取り組みを設けることを検討しても良いのではないのでしょうか。

【井川市長】 貴重なご意見をありがとうございます。

三保谷職務代理者からは、共働きで時間が限られる中でも、親子で時間を共有し、家庭教育を進めていくことの重要性についてご意見がありました。子どもは成長するにつれて学校や塾などで学ぶ機会が増えていくと思いますが、やはり土台となるのは家庭教育だと感じます。また、時代の変化により、他の保護者が子どもを注意する場面は、以前ほど見られなくなりました。そうした状況だからこそ、家庭の中での親子の関わりが、子どもの成長や将来に大きく影響していくのではないかと考えております。

石田委員からは、家庭と地域との関わりについてご意見がありました。ご指摘の通り、子どもが地域で遊ぶ姿は以前より見られなくなりました。通学に関しても、雨が降れば送迎するなど、過保護な面も見受けられます。中には、傘の正しい使い方が分からない子どももいると聞きます。そういう当たり前のことができない子が増えているのも事実だと思います。子どもたちが自立して生きていく力を養うためには、親が中心となり様々なことを意識的に教えていく必要があると思っています。

坪井委員からは、学校教育と家庭教育の役割分担についてご意見がありました。学校教育では、教えられることにある程度限界があると感じています。また近年は、パワハラやセクハラなどのハラスメントが問題になりやすく、教える方にとっても難しい時代だと思うので、家庭教育の役割はこれまで以上に重要だと思います。

戸島委員からは、地域活動の希薄化についてご意見がありました。区・常会で行われてきた地区の奉仕作業を放棄するケースも出てきており、お金で解決するような時代になれば、より地域が変わってしまうと思います。子どもは親や地域の大人の姿を見て育つので、地域活動がなくなってしまうと、子どもも同じように参加しなくなっていくと思います。加えて、学校統合により通学範囲が広くなり、地域との関係が希薄になっている側面もあるかと思っています。これにより、今まで以上に地域活動がなくなることが危惧されます。私はそれが非常に悲しいことと思っています。また、以前、保護司として「あいさつ運動」に参加した際、正門付近まで車で送り、親が子どものシートベルトを取り、カバン等の身支度をしている姿を見て驚きました。子どもの自立を促すため

にも家庭教育の重要性を保護者の方にも改めて認識していただく必要があると感じています。

(2) 銚田市教育大綱の策定について

- 【井川市長】 続いて、協議事項(2)「銚田市教育大綱の策定について」となります。
本大綱につきましては、地方公共団体の長が、教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱として定めるもの、となっており、現在の第2次銚田市教育大綱の計画期間が令和7年度までとなっておりますことから、策定に向け協議するものとなります。
教育大綱の策定にあたりましては、教育委員会で策定している銚田市教育振興基本計画と整合性、連動性を図ることが大変重要であります。
そこで、私からは銚田市教育大綱と銚田市教育振興基本計画を一体的に策定し、これまで以上に一貫性をもって教育行政を推進していくことを提案いたします。詳細については事務局より説明願います。

【川田係長】 (資料に基づき説明)

- 【安原教育長】 教育大綱と教育振興基本計画の一体化ということでご提案がありました。現在、教育委員会では第4期教育振興基本計画の策定を進めております。本計画は教育大綱との整合性を図りながら策定している計画となります。今回一体化することで、より緊密な教育施策が推進できると期待していますので、一体化については賛成です。

- 【石田委員】 現状の教育大綱の構成を「教育目標」・「基本方針」・「推進体制」に新たに区分することは、非常に良い変更だと感じています。教育理念と基本方針をまとめて「教育目標」とし、基本目標を「基本方針」へと整理したことで、目指す姿と実践していくことの違いが明確になりました。全体として、これからの方向性がより伝わりやすい表現になったと思います。
また、基本方針の文言の修正についても、今の時代に即した適切な文言に修正されていると思います。
さらに、推進体制が図式化された点については、視覚的に非常に分かりやすく整理されていると思います。

- 【三保谷職務代理者】 石田委員と同意見です。教育大綱及び教育振興基本計画において、家庭教育の推進体制に関する項目が明確に位置付けられたことで、今後さらに家庭教育を推進していける実効性のある計画になっていると思います。

- 【井川市長】 ありがとうございます。それでは、教育大綱と銚田市教育振興基本計画の一体的な策定については、提案した形で進めさせていただいてよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

- 【井川市長】 異議なしと認め、そのように進めさせていただきます。
なお、会議冒頭にも申し上げましたが、今後の教育行政を推進していく上では、現状の把握に努め、行政として取り組むべきこと、教育委員会として取り組むべきこと、それぞれの責任をしっかりと果たすことできるよう、重要事項等

について協議・判断してまいりますので、よろしく願いいたします。

【井川市長】 それでは、本日いただいたご意見等を参考に、市、教育委員会が連携し、鉾田市の教育の更なる発展に向けて努めてまいりたいと思いますので、引き続き皆様方のお力添えをお願いいたします。

それでは、議長の職を解かせていただきます。ご協力ありがとうございました。

5 閉 会